

(1)【投稿資格】『高等教育と学生支援 — お茶の水女子大学紀要』(以下、本誌)に投稿できるのはお茶の水女子大学に勤務する教職員および大学院生と本誌編集委員会が認めた者である。共著の場合の連名者はこのかぎりではない。

(2)【投稿論文の種類】本誌に設けられる論文の種類は「一般論文」「調査・実践報告」「資料・ノート」である。

(3)【審査】投稿論文は本誌編集担当が当「投稿・執筆規程」との整合性について点検をおこなう。それを通った論文について掲載する。

(4)【論文基本要件】論文は日本語または英語で書かれており、内容は本誌主題の趣旨である高等教育、学生支援、およびそれらの重なりに沿ったことがらで、オリジナルかつ未公開のもの、他の雑誌に同時に投稿されていないものに限る。なお、論文の投稿をもって、当投稿・執筆規程に記した投稿・執筆諸要件に同意し、満たしたことの申請に代えるものとする。

(5)【倫理的な配慮】投稿論文の執筆にあたっては、研究対象者・研究協力者・研究関係者の人権の尊重と福祉に対する十分な配慮が必要である。調査研究や実践研究、とくに事例研究については研究対象者・研究協力者・研究関係者に研究の意義や目的などの説明をし、研究成果の公表とその方法について同意を得たうえで、彼らのプライバシーが守られるよう最大限に配慮する必要がある。そのために執筆内容に含まれる個人の私的事実の記載を最小限に留めたり、照合しがたい記号にしたり、省略することはかまわない。

(6)【データ利用に関する同意と承認】研究や実践、調査において収集・利用するデータについては、当該データの提供者(調査・実験の対象者など)から文書または記録に残る方法で同意(インフォームド・コンセント)を得ていることが必要である。業務上の職務遂行を通じて生成されたデータ(授業記録、学生支援記録、業務報告など)を研究目的で利用する場合には、所属部署内での合意形成および部署長の研究発表承認を得ることが必要である。研究倫理審査委員会等による審査を受け、承認を得た上で研究を実施することを推奨する。倫理審査を経た場合には、本文中に審査機関名および承認番号を明記する。同意や承認の手続きが確認できない場合、投稿を受け付けないことがある。

(7)【論文の長さ】1 論文の長さは「一般論文」「調査・実践報告」の場合、和文については 2 万字、英文については 8 千単語を目安とする。「資料・ノート」の場合は和文については 1 万字、英文については 4 千単語を目安とする。どちらの場合についても、この誌面分量のなかに図表の領域が含まれる。ただし、論述内容次第で必要に応じてこれらの目安は緩和される。

(8)【論文の投稿形式】原稿の文章は、テキストファイル(.txt ファイル)で電子メールの添付書類にして提出する。

(9)【図表の形式・提出方法】グラフ、図、表、写真など文書以外のイメージを含む素材は、図表ごと個別に.pdf、.jpg、.png、.tif、いずれかのファイルフォーマットで受けつける(推奨は pdf である。マイクロソフト社のエクセルやパワーポイント、ワードのファイル形式による図表は受理できない。これら図表を挿入すべき位置は文書中にそれとわかるように指示し、同時にその場所に図表のキャプションを記載する。ただし、本誌のレイアウトとの関係で指示された場所へのレイアウトになるとはかぎらない。

(10)【図表の色】本誌はウェブを介して pdf により無料一般公開される。その際は全面フルカラーで掲載されるので、文字以外は積極的にカラー図表を用いられたい。

(11)【本文中での図表の参照方法】図と表はすべて Figure、Table と表記を統一し、通し番号をつける。

(12)【本文の章立て・項目立て】章や項の項目だてに際しては、通し番号や記号は付さず、大項目については、そのタイトルの前後に空行をいれる。大項目内の下位項目については、そのタイトルの前に空行をいれ、そのタイトルの後には空行をいれない。さらに下位項目を設ける必要がある場合は、そのタイトルの後に 1 スペースをおき、改行しない。

(13)【必要属性・要旨の体裁】論文には日本語と英語による表題、所属機関部署名(日本語と英語)、著者名(アルファベット表記と共に)の記載が必要である。そのうえで「一般論文」「調査・実践報告」については、要旨(英文で 150 単語前後が目安: 文章に関しては、専門家の校閲を経ていることが望ましく、必ず日本語の要旨を添える)とキーワード(3~5 項目、一般に英語小文字、日本語も併記)を必要とする。「資料・ノート」の場合は要旨、キーワードは必須ではないが、付す場合は上記の体裁とする。

(14)【数字やアルファベット、記号などの表記法】数字は原則として算用数字を使用する。なお、論文全体を通じて数字とアルファベット、%などの記号は半角、括弧は全角を用いる。また文字括弧(1)(2)などの表記にあたり、その全体で一文字の全角になるような特殊文字は使用しない(編集の過程で文字コードの相違から(1)(2)が(月)(火)のように変化したりするため校正の際に著者の手間が増えることになる)。アンダーラインや斜体、強調太字などの文字修飾は避ける。和文の句読点は全角の「、」「。」とする。

(15)【計量単位】計量単位は、原則として国際単位系(SI)を用いる。

(16)【参考文献の表記形式】参考文献は論文の最後に一括する。雑誌名は省略しない。参考文献の記載は日本語・外国語ともに

第一著者名のアルファベット順とする。同一著者の論文・著作等は刊行年順とし、同一年に同一著者の論文・著作等が刊行されている場合には、「1999a」「1999b」のように年号の後にアルファベットで順序をつけて区別する。文献の表記は以下の形式に準ずる。

・書籍の場合

大空めぐみ(1987)『戦略的防衛の歴史的一考察』大地書房。
Delay, J. (1990). Initiative for Information Society. Fine University Press.

・翻訳本の場合

Illich, I. (1973). Tools for Conviviality. Harper & Row, Publishers, Inc.
渡辺京二・渡辺梨佐訳 (1989)『コンヴィヴィアリティのための道具』日本エディタースクール出版部。

・書籍中の特定部分の場合

大空めぐみ(1989)「方略的防衛の歴史的一考察」pp.155-185。
大地野いかり編 (1989)『日本の国防』大国書房に所収。
Delay, J. (1991). Initiative for Knowledge Society. pp.68-120. In Oracle, P. G. & Cisco, N. R. (Eds.), Worldwide Computing. Wonder University Press.

・定期刊行物の場合

大札二郎 (2002)「コンティンジェンシー理論の展開」『記憶研究』10(2), 112-114.
Craik, F. I. M. & Tulving, E. (1975). Depth of processing and the retention of words in episodic memory. Journal of Experimental Psychology: General, 104, 268-294.
本文中に文献を引用する際はたとえば、「大空(1976)」、「大地・山田・高橋(1978)」、「Yamano and Umino(1985)」のように、著者の姓に続けた括弧内に年号をアラビア数字で記入する。ただし、本文中で参考文献の指示全体を()でくくる場合は、著者姓と年号のあいだを「,」とし、文献が複数ある場合のあいだは「;」で区切る。例「大空, 1976; 大地・山田・高橋, 1978; Yamano and Umino, 1985)」。なお、本文中に文献を引用する際、それが共著 4 名以上の場合は「高橋ら(2002)、(Davidsonetal.,2001)のようにする。

(17)【注の表記形式】注は、本文の末尾、参考文献の前に「注」として一括し、複数ある場合はアスタリスク付きの通し番号(*番号)〔()は不要〕をつけて本文中での参照関係を明確にする。ページ内の脚注は用いず、すべて注とする。

(18)【仕上りの体裁・著作権】仕上りの体裁は本誌編集担当に一任する。本誌に掲載された論文の著作権はお茶の水女子大学に帰属する。また、この著作権帰属の扱いをもとに掲載論文はすべて本学附属図書館の"TeaPot"(教育・研究成果コレクション/学術リポジトリ)にも自動的に掲載される。この電子ジャーナルへのインターネット上でのリンク形成は自由である。

(19)【表紙】表紙として独立ページ一枚につきの項目が表記されていること。

- 1.投稿論文種別「一般論文」、「調査・実践報告」または「資料・ノート」
- 2.日本語題名
- 3.英文題名
- 4.所属・連絡先
 - 1)執筆者氏名:漢字表記、ローマ字表記(Namae MYOJI の形式)
 - 2)所属機関・部署名・職位(いずれも英語表記含む)
 - 3)連絡先住所(所属機関がお茶の水女子大学ではない場合)
 - 4)電子メール・アドレス

(20)【投稿論文の受付時点検】以上の形式を満たしていない論文については査読以前の段階で論文が受付されないの注意されたい。また、内容が常識的観点からあきらかに公序良俗に反すると判断されたり、他者や組織の非難を内容に含む場合は受けつけられない場合がある。この判断は本誌編集担当が恣意的におこない、判断論拠はあきらかにできない場合がある。

(21)【原稿料】掲載論文に対する原稿料は支払われない。

(22)【採択論文の掲載】採択された論文は投稿時期にかかわらず、その都度、直ちに電子ジャーナルとして教育開発センターで管理するサーバー上でウェブを介し、pdf ファイル形式で掲載され、一般に無料公開される。また、1 年単位で巻ごとにお茶の水女子大学附属図書館電子リポジトリ Teapot を介して発刊する。

(23)【別刷】本誌は底版を電子ジャーナルとして発行する、そのため、別刷はない。著者各自に pdf 版を印刷されたい。

『高等教育と学生支援』編集担当